

(別紙4) 平成 23 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190100374		
法人名	株式会社 わかば		
事業所名	グループホームわかばの家福部		
所在地	鳥取県鳥取市福部町湯山1433		
自己評価作成日	平成23年12月25日	評価結果市町村受理日	平成24年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	鳥取県社会福祉協議会		
所在地	鳥取県鳥取市伏野1729-5		
訪問調査日	平成24年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数の受け入れで、利用者様を理解し、細やかな気配りを行っている。家庭的で温かい雰囲気を出している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成22年10月、砂丘にほど近いペンションの1階部分を改装して新設されたグループホームで、外部評価を受けられるのは今回が初めてです。各居室は採光がよく明るく清潔に整えられ、入口は好みのれんや花の絵の表示物等で利用者にも分かりやすい工夫されています。浴室やトイレも利用者の安全と使いやすさに配慮されています。共有スペースはやや狭い印象を受けますが、利用者がくつろいで過ごせるよう家具の配置や掲示物等を工夫されています。 住宅地の中にあるため近隣の住民と顔を合わせる機会も多く、地域との関わりをもちやすい環境にあります。町内会に加入され、役員との協力体制を築きながら今後さらに交流を進めていきたいと考えておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人に寄り添い、その人に何が大切かを常に考えながら、より良いサービスに向け努めている。	12月に管理者、職員で話し合い、事業所理念を作成されました。一人ひとりの個性を大切にしながら利用者に笑顔で過ごしていただくこと、地域住民とのふれあいを重視することの2点を事業所理念とし、食堂に掲示されています。	職員一人ひとりが事業所の理念を理解し、実践につなげられるような具体的な取組みが大切です。日々のサービス提供場面を振り返り、理念がケアに反映されているか確認する機会をもたれるよう期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、夏祭りに参加し地域の方と交流を深めた。	浜湯山地区自治会に加入するとともに、管理者は開設当初より機会をとらえて地域へ出向き、協力が得られるよう働きかけられています。自治会長や駐在所、民生委員等の地域役員や関係者が事業所を訪れ、利用者に声をかけてくださるようになっていきます。また、地域からの依頼で事業所に「こども110番」を設置され、小学生の登下校時や近隣住民との挨拶等を通じて顔なじみの関係ができています。	事業所の様子が分かる広報紙を作成し配布したり、地域のボランティアグループとの定期的な交流が定着し、普段の暮らしの中でも利用者と地域住民が関わる場面がさらに増えるよう期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で質問・意見を受け、具体的な対応、取り組みについてお話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開き、施設内の行事状況の報告を行い、それぞれ意見を頂き、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は区長、民生委員、駐在所、町福祉保健課、地域包括支援センター職員をメンバーとして2か月に1回、地区の公民館で開催されています。災害時の避難場所の確認や地域の行事参加等について話し合われています。	現在、地区公民館を会場として開催されていますが、事業所や利用者の実際を知っていただく機会としてホームでの開催も検討されることを期待します。また、利用者、家族の意見も話し合いに反映できるような工夫にも期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者に課題についての取り組み状況、課題等を報告、相談し協力していただいている。	介護保険手続きや利用者の状況について、日頃から地域包括支援センター担当者へ相談されています。水害に備え、事業所周辺の側溝を修繕する等、役場担当との連携も図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の連携により、声かけ見守りを行い、安全に努めている。	日中は玄関を施錠せず、センサーによって人の出入りが分かるようになっていきます。利用者が外出される時は職員がさりげなく付添い、行動を制限しないよう努められています。管理者は法人の事故報告委員会に参加し、拘束をしないケアについて毎月話し合いがもたれています。	身体拘束について正しく理解し、職員全員が共通認識のもと拘束のないケアを実践するため、事業所内でも研修の機会をもたれるよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	課題等が発生した場合、その都度職員同士で話し合いを持ち防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会はほとんど行っていないので、理解できていない。支援に対して不安である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約条件について十分な説明を心掛けており、不安、疑問等にはその都度分かりやすく説明するように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族へは毎月お便りをお渡しして、施設での生活、取り組みをお知らせしており、面会時にはなんでも言っていたけような関係を心掛けている。	家族の面会時に意見や要望をお聞きするよう職員から声をかけられています。重要事項説明書に事業所内外の苦情窓口を記載し、玄関には意見箱が設置されていますが、利用者や家族からの意見が寄せられたことはありません。	利用者本人や家族等から意見・要望を引き出すような工夫、場面作りが大切です。思いを伝えられる機会が増えるよう、より積極的な取り組みを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1~2回行われるミーティングで職員の意見、要望を聞く機会を設けて、それらを運営に反映できるよう心掛けている。	管理者は毎月の「福部会議」(職員会議)で職員からの意見や提案を聞き、業務内容や分担を改善されたり、夜勤・日勤の勤務時間を変更される等、運営に活かされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のストレス、健康等には気を配っているが、向上心を持って働ける職場環境条件の整備については、不安がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	企業全体・同施設ごとの研修会を定期的に行い、職員の理解を知る為にレポートの提出を義務づけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の見学等はほとんど行われていないので、これからは機会があれば、職員の希望を聞きサービス向上のため、他施設の見学等を取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入院や入所されている場合、面会して顔を覚えていただくようにし、健康状態や思いを把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に、不安なことや困っていること等を聞き、安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学や面会をふまえて、どのようなサービスが必要か見極め、家族に説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とコミュニケーションをはかり、経験されてきたことや得意、不得意なことなど聞いたりし、共に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活の様子を毎月お便りを出し、伝えている。家族の面会時に情報交換をしている。体調に変化が有る時にも、連絡をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り馴染みの方に面会に来て頂ける環境にしている。ドライブに出かけた際、馴染みの場所に立ち寄るように努めている。	馴染みの人や場所については、入居時の聞き取りを基に支援されています。友人や近所の方の訪問、馴染みの場所への外出につながる支援は一部の利用者に留まっています。	馴染みの人や行きつけの場所、思い出の場所等、利用者一人ひとりについての情報をできるだけ多く把握するための積極的な取組みを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮し、時々席替えをしたり、職員も間に入りコミュニケーションをとっている。皆で楽しめるようなレクリエーションを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された時には、お見舞いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望、意向を普段の会話から聞き取り、把握できるように努めている。	入居時の聞き取りと併せ、プランの変更時には利用者本人、家族の意向を確認されています。また、日々の会話から利用者個々の希望や思いをくみ取り、気づいたことは日誌に記録されています。	利用者一人ひとりについて、何をしたいか、誰に会いたいかなどの希望や思い、習慣や好みを理解するためのより意識的な取組みを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者のこれまでの生活歴を聞いたり、会話の中から把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方の中で、利用者の体調やペースに合わせて、一人ひとりそれぞれの支援が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く生活して頂けるように話し合いの場を設け、見直しや意見交換を行い、計画を作成している。	ケアプランに沿って担当職員が日々の実施状況を確認、記録し、月1回ケアマネジャーが評価されています。また、3カ月おきのモニタリングによって計画の見直しについて検討され、担当者会議では本人、家族の意向も確認しながら話し合われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付いた事などを記録し、職員間で情報が共有できるように申し送りを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	布団利用の方だったが、夜間にトイレに行かれる際、立ち上がりの時にふらつきや転倒が有り、ベットに替えた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方の畑でシソの実を刈ってきて、佃煮にして食べた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診、本人の体調の変化に気付いたとき、往診していただいたり、相談している。	利用者ごとのかかりつけ医を把握し、支援されています。定期通院は基本的に家族が対応されるため、家族からの聞き取りで医務記録を作成し、医師、家族、事業所間の情報共有を図られています。必要に応じて看護師の指示でかかりつけ医に直接相談されることもあり、結果は家族にも連絡されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に施設での様子を報告し、診察結果や状態を聞き、入院中はお見舞いの際に、様子をうかがう。又退院時には医療機関から情報を頂いている。退院後は主治医に報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の受け入れのあり方を家族、職員で話し合い、緊急時の対応を決めている。	重度化した場合は基本的には受け入れない方針が重要事項説明書に記載されていますが、ターミナル期の利用者については、その都度家族、主治医、職員で対応を検討されています。急変時マニュアルを作成する等、家族の意向に添いながら可能な限り支援できるよう取組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、訓練は、定期的には行ってない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が身につけ、体制を築いている。	防火対策として調理器具はIHヒーターを使用されています。日中の火災を想定した避難訓練は実施されていますが、夜間想定訓練はまだ実施されていません。夜間の災害に備え緊急連絡網が作成されています。	避難誘導や緊急時の対応については研修や訓練で繰り返し確認することが必要です。消防署や地域住民の協力も得て、昼夜を問わず対応できる方法を訓練を通して全職員が身につけられるよう、特に夜間想定訓練を早急に実施されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに合った対応をし、プライバシー尊重に努めています。言葉掛けは状況に応じて親しみを込めた表現をする事もあるが、馴れ馴れしい言葉にならないよう配慮している。	職員の言葉遣いをはじめ、排泄や入浴時の介助、記録の管理等、利用者個々のプライバシー保護について配慮されています。また、法人全体会での人権研修に施設長が参加されています。	法人や外部での研修だけでなく、事業所内でも職員全員で人権やプライバシー保護について具体的に確認し合える機会をもたれるよう期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定、返事がもらえるような声掛けをし、表情や会話から本人の希望や気持ちをくみ取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を送り、日常のリズムを崩さないよう、本人の希望を聞きながら、意思を尊重した援助をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気候に合った衣類を選択し着用していただいています。身だしなみやおしゃれについてのアドバイスをしたり、出張理美容で定期的にカットもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食事を提供したり、一人ひとりの食べやすい状態を配慮しています。準備や片づけは出来る方になるべくお願いし、一緒に行っている。	献立は、その日の調理当番の職員が決められていますが、利用者の希望によって変更したり、誕生会にはリクエストメニューも実施されています。食事中は食堂のテレビを切り、音楽を流してゆったりと食事を楽しめるような雰囲気作りをされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事摂取量を記録したり、一人ひとりに合った硬さ、大きさを配慮しています。飲み物は種類を変え、楽しくおいしく摂れるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝晩の口腔ケアは習慣になっており、清潔保持に努めているが、昼食後は口腔ケアが出来ていない方が多くおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、なるべくトイレでの排泄を心がけ、声掛けし誘導を行っている。	利用者個々の排泄パターンを把握され、声かけによってトイレでの排泄を促されています。おむつやリハビリパンツの使用が必要かどうか利用者ごとに検討され、パットや布パンツへ移行できるよう支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック、記録を行い、食事には野菜や食物繊維の多い食材を多くつかうよう心掛けている。1日2回以上体操を行い適度な運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にはバイタル測定を行い、健康状態を確認する。利用者に希望を聞いて入浴していただいている。	入浴の順番や担当職員等、利用者個々の希望を確認しながら1日3名程度の入浴を支援されています。入浴を拒まれる方には無理強いをせず、順番を変えたり翌日に変更する等の対応をされています。夜間入浴の希望はありますが現在は実現できていません。	入浴できる人数や回数を限定せず、利用者の希望や意向に沿った入浴が叶えられるよう、職員体制を工夫する等、前向きな取組みを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の希望や状態に応じて、ベットや布団などで対応している。休息は本人の希望により行うが、利用者の状態を見ながら、休息して頂くこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりへの薬の説明書を確認し、服用の忘れがないように看護師と連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などの手伝いをして頂いている。毎月の行事を計画し、また、誕生日会を催し楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気が良ければ散歩に出かけたり、ドライブで出かける。	ドライブや行事での外出は実施されていますが、突発的な外出希望については、天候や職員の対応が可能であれば支援されています。日常的な外出については、利用者の1/3程度が実施されている状況です。	外出を行事ではなく日常生活の一部としてとらえ、日常的な外出の機会が増えることを期待します。職員による外出支援以外にも、家族や地域の人々の協力を得ながら個別の希望にも応じられるような工夫を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と話し合いながら、その方の管理能力に合わせ金銭管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望が有り、家人様の了解があれば、電話でお話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やトイレには花や植物を飾り、デイルームにはその時期に合わせた飾り付けを行い、季節感を感じられるよう努めている。	玄関や食堂には季節の掲示物や植物が飾られ、限られた空間ながらソファやぬいぐるみも置かれて、利用者がくつろげるよう工夫されています。傾斜のある廊下には「上り」「下り」を表示され、安全に配慮しながら機能訓練の場としても活用されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その都度、状況に応じた対応に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅の馴染みのある物を持ってきて頂き、落ち着いた環境づくりに努めています。	家族の協力のもと、家具やベッド、ふとん等それぞれ使い慣れた物を使用され、写真や趣味の作品を飾られる等、利用者個々の個性ある居室となっています。掃除や整理整頓は担当職員が支援しながら利用者と一緒に行為れ、清潔で居心地のいい空間になるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手摺を設け、各居室には名札と個々に違う花の絵を飾り、自室とわかるようにしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束についての正しい理解と職員全員の共通認識が必要	身体拘束について正しく理解し、拘束のないケアの実践	今年度、身体拘束を社内研修として行う予定である。それ以外にも安全委員会を中心に、施設内での話し合いや勉強会を実施して、個々の認識を深め実践につなげていく。	12ヶ月
2	10	利用者・家族からの意見・要望がなかなか出ない。引き出すような工夫と場面作りが必要	利用者・家族が意見や要望を遠慮なく言える環境、場面作りをしてお互いのコミュニケーション、信頼関係を築く	家族会を5月・10月の年2回開催予定。その際家族からの要望等を聞く機会を設ける。また、家族間の交流も持って頂く。今後も家族の面会時や会った時に要望・意見などを聞いていく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。